

レビュー研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫		
	タイプ			
タイトル情報	論文の英語タイトル	Tumor doubling time: a selection factor for pulmonary resection of metastatic melanoma.		
	論文の日本語タイトル			
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ17-6		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)		
	Pubmed ID			
	医中誌 ID			
	雑誌名	J Surg Oncol. 1998 Dec;69(4):206-11		
	雑誌 ID			
	巻	69		
	号	4		
	ページ	206-11		
	ISSN ナンバー	0022-4790 (Print)		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	1998		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Ollila DW,	Roy E. Coats Research Laboratories and the Division of Surgical Oncology, John Wayne Cancer Institute
その他著者 1		Stern SL,.		
その他著者 2		Morton DL		
その他著者 3				
その他著者 4				
その他著者 5				
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

レビュー研究の6項目	目的	肺の遠隔転移切除後の予後と腫瘍倍量時間との関係を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	119 例の肺転移切除患者 多変量解析 腫瘍倍量時間 60 日未満の生存期間中央値 16 月、5 年生存率 0%、60 日以上生存期間中央値 29.2 月、5 年生存率 20.7%
	結論	肺の遠隔転移切除後の予後因子として腫瘍倍量時間が重要である。 腫瘍倍量時間 60 日未満の患者は術前に化学療法や生物学的製剤治療を行うことを勧める。これらの治療によって腫瘍倍量時間が 60 日以上にならないならば切除を行うべきではない。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	宇原 久
レビューワーコメント	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 肺の遠隔転移切除後の予後因子として腫瘍倍量時間の重要性を示し、切除症例の選択と術前治療にも触れている興味ある論文である。